

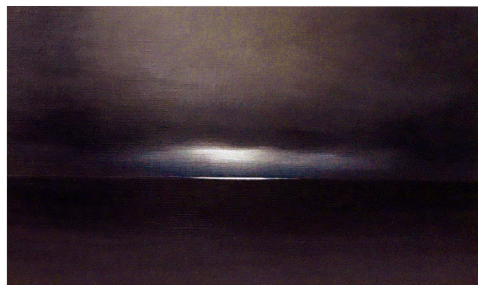
秋葉シスイ Akiba Sisui 2007年卒業



次の嵐を用意している 油彩・カンヴァス・65.2×80.3cm・2019年



echo of silence 油彩・カンヴァス・
50.0×65.2cm・2019年



M. 油彩・カンヴァス・
33.3×53.0cm・2019年

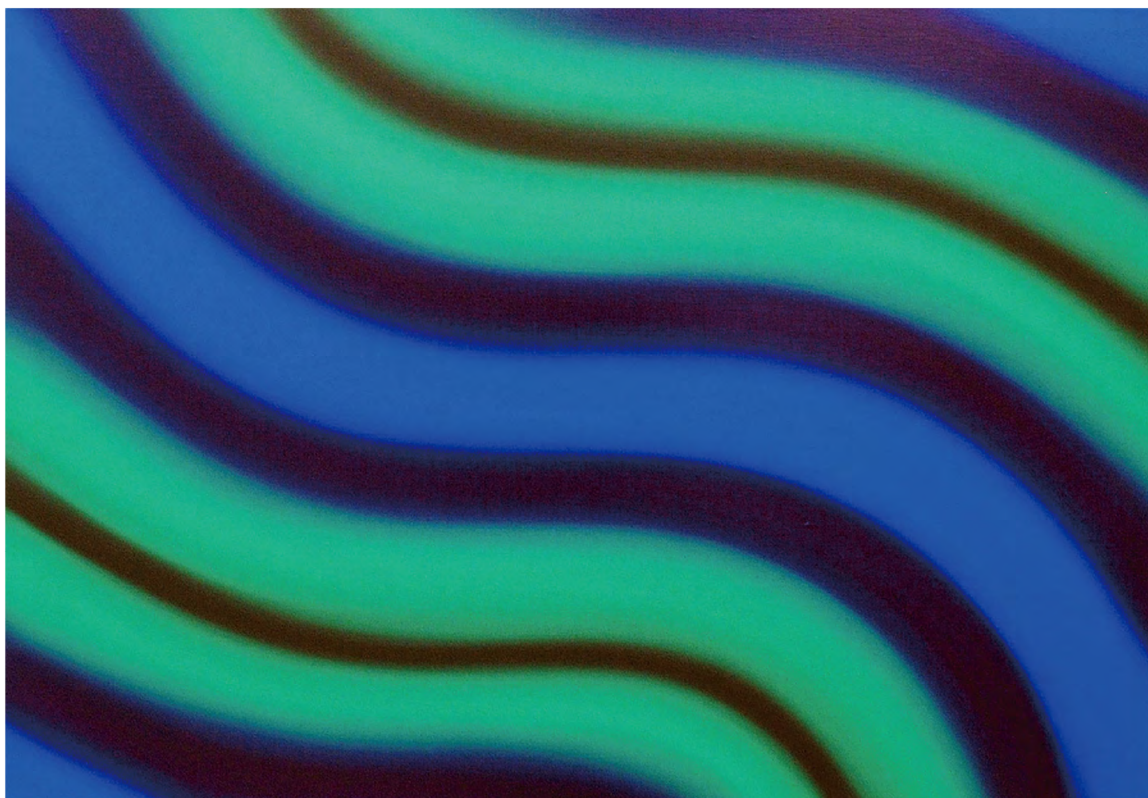


「次の嵐を用意している」

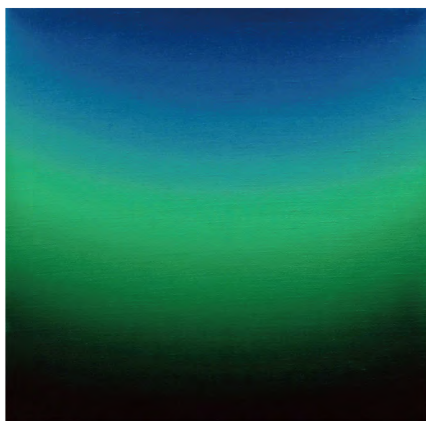
日本橋三越本店・2019年7月31日—8月13日

卒業後、画廊に勤めながら制作をしてきた。海外のアートフェアに出品の機会もあり、作品は売れ、活躍している。2018年、ひさしぶりに国内で個展の機会があった。2019年は三越で個展が開催された。これまで深く暗い色調が主だったが、ここでは、一部白い画調を示し、12月の大阪での個展への手がかりをつかんでいたようだ。

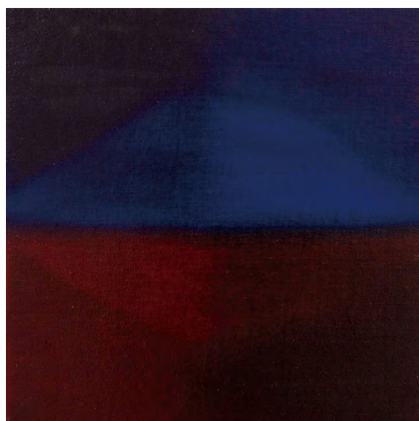
根本高國 Nemoto Takakuni 2012年卒業



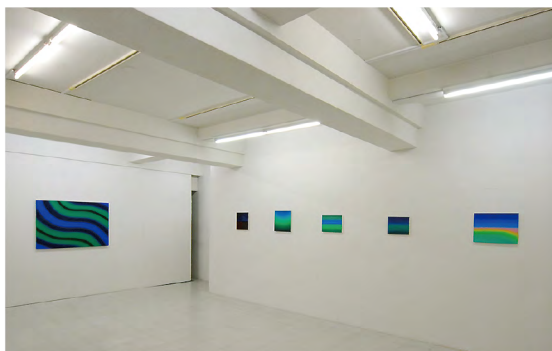
時色 No.99 油彩・カンヴァス・91.0×116.7cm・2019年



時色 No.85 油彩・カンヴァス・
33.3×33.3 cm・2017年



時色 No.97 油彩・カンヴァス・
30×30 cm・2018年



「根本高國展」

ギャラリー58・2019年6月3日—8日

卒業後毎年のように個展を開催、また多くのグループ展に参加し、精力的に発表をしてきたひとり。さらに制作の点数も多い。会場は色彩が走り回る運動場のような。描くことの楽しさ、勢いでここまで来たと思う。そろそろ次のステップを目指すときにきているのだろう。正社員として働く一方で、制作の時間を有効に使うことを考えている。

畠中瑠夏 Hatanaka Ruka 2018年卒業



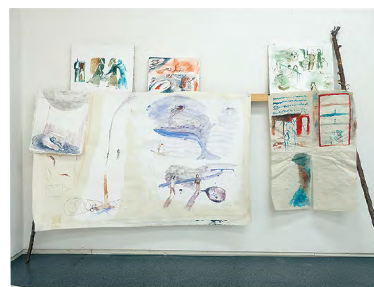
物語の連動 油彩・カンヴァス・土・2019年



水平への錯覚
油彩・カンヴァス・土・2019年



私がまどろみの中で見た風景
油彩・カンヴァス・2019年



案山子より収斂される物語
油彩・カンヴァス・2019年



「朝の支配から冬のぼらまで」
アーツスペースキムラASK?・2019年3月4—9日

会場にはあちこちに作品が点在していた。大きさも表情もさまざまで、木、木炭、アクリル、エンビツなどが用いられ、インスタレーションの形式とっていいだろう。絵画を思わせる作品には柔らかなタッチがみられる。立てかけられた木は細いが、画廊の空間全体への線描として働きかけている。そこには小さな物語が紡ぎ出されていた。